

平成22年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ヒガチ ケンイチロウ
氏名 樋口 謙一郎

研究期間 平成22年度

研究課題名 「グローバルチャイナ」における文化認識と国際社会への影響

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	樋口謙一郎	文化情報学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

本研究では、世界の政治経済・文化に大きな影響を与える現代中国の人々が、その経済的躍進に伴い、中国文化の国内およびグローバルな流動をどのようにとらえ、いかなる文化的対応を行っているのか、国民レベルでいかなる文化認識を有しているのかを分析するとともに、その国際社会への影響を考察する。

具体的な研究領域として、本研究では、市場経済、外資系企業、労働環境、チャイナマネー、教育観および教育制度の変化、香港における移民、日本文化の流入などを取りあげ、その現状と課題、展望を、文献調査や関係者ヒアリングなどにより可能な限り明らかにする。

2. 研究方法等

- ・関連の基礎資料（日本語、英語、中国語）の収集・分析を行い、その文化的対応が文化交流や対外認識の形成にいかなる影響をもたらしてきたのかという点について検討する。また、上海、南京、深圳、香港などにおいて、研究者、企業経営者、メディア関係者などにヒアリングを行う。
- ・南京大学中日研究中心、香港城市大学の研究者の協力を得て研究を進め、学会誌などへの寄稿を目指す。また、研究の中間成果として、年度内に共著書を刊行する計画である。

3. 研究成果の概要

本研究では、現代中国の政治・社会が示すさまざまな論点について考察・展望を示すことを目指したが、その際、地域保護主義、封建的な制度と伝統、社会主義的なシステムといった中国の根深い弊害をいかに克服し、公正な法制度の確立をいかに実現するかという問題意識が中心となった。

「いまの中国」の華やかな面と抱える課題の両面について、さまざまな角度から臨場感のある考察を行うべく、適宜、各分野の専門家との研究討論を行ったほか、上海、香港、シンガポールで調査を行い、各種研究資料の収集やヒアリングを行った。

主たる研究成果としては、本研究の中間報告としての性格を持つ書籍『「グローバルチャイナ」の現在』（大学教育出版、2010年10月）を樋口と田雁・南京大学中日文化研究中心（センター）研究員との共編著として刊行した。

関連して、来年度に中国の出版社（上海人民出版社・予定）から刊行される書籍への寄稿、および3月にハワイでの開催が予定されている The Joint Conference of Association for Asian Studies (AAS) and International Convention of Asia Scholars (ICAS)での研究発表を準備している。

このほか、本研究で培った知見と研究者ネットワークを活かして一層の研究を推進すべく、来年度以降に向けて競争的外部資金の応募準備を行っているほか、学生・一般向けの書籍の編集・出版を企画している。

4. キーワード

①中国	②香港	③グローバル化	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

- ・（著書）田雁・樋口謙一郎『「グローバルチャイナ」の現在』全270頁、2010年10月20日、大学教育出版
- ・（新聞論説）樋口謙一郎「香港在住コリアン：世界都市で強まる英語志向」『東洋経済日報』2010年11月12日付
- ・（学会発表・予定）Higuchi Ken'ichiro and Kwong Yan Kit, Language Education and Language Use of Koreans Living in Hong Kong, The Joint Conference of Association for Asian Studies (AAS) and International Convention of Asia Scholars (ICAS), March 31–April 3, 2011 at the Hawai'i Convention Center.